

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	イチョウ葉抽出液M
整理番号	F-77
会社名	松浦薬業株式会社
担当部署	信頼性保証部
住所	愛知県名古屋市昭和区円上町24-21
電話番号	052-883-5151
FAX番号	052-883-5159

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康有害性

引火性液体	区分3
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2A
生殖細胞変異原性	区分1B
生殖毒性	区分1A
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3（気道刺激性 麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（肝臓） 区分2（神経）

環境有害性

区分外か分類できない。
上記に記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素
絵表示



注意喚起語
危険有害性情報

危険

H226	引火性液体及び蒸気
H319	強い眼刺激
H340	遺伝性疾患のおそれ
H360	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H335	呼吸器への刺激のおそれ
H336	眠気またはめまいのおそれ
H372	長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害
H373	長期にわたる又は反復ばく露による神経の障害のおそれ

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
含有する指定化学物質の名称

混合物
エタノール 含有率：約30v/v%
本品は、イチョウ葉エキスを含水エタノールで抽出して製した抽出液。

4. 応急救置

目に入った場合
皮膚に付着した場合
多量に吸入した場合
飲み込んだ場合

直ちに清浄な流水で10分以上洗眼する。
石鹼で充分洗浄後、水洗いする。
患者を空気の新鮮な場所に移し、安静にする。
口をすすぎ、コップ1～2杯の水を飲ませて希釈する。
以上の措置後、症状が改善しなければ医師に連絡をとり、必要に応じて手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火方法
消火剤

初期の火災には大量の水噴霧、又は消火器による消火を行う。
水、消火器（粉末、炭酸ガス、アルコール用消火器）

6. 漏出時の措置

少量の場合は、大量の水で洗い流す。流出物が河川、水路等へ流れ込まないように注意する。
多量の場合は、産業廃棄物として処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

みだりに火気、その他点火源となる恐れのあるものへの接近、若しくは蒸発、又は加熱しないこと。

こぼしたり付着したまま長時間経過すると、ふき取りにくくなる場合があるので、早めに取り除くようにする。

保管

火気その他危険な場所から遠ざけ、温度遮光に注意し室温で保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

適切な保護具（マスク、手袋等）を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

性状

本品は褐色～黒褐色の液で、特異な臭いがあり、味は苦い。

比重

d_{20}^{20} 約0.97

アルコール含量

約30v/v%

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の条件下では安定である。

避けるべき条件

高温への暴露

危険有害な分解生成物

燃焼などによりCO等の有害ガスを発生する恐れがある。

11. 有害性情報

本品での知見なし。

イチヨウ葉では、内服によりまれに、胃腸障害、頭痛、アレルギー性皮膚炎を生じることがある。なお、抗血液凝固剤との併用で、まれに出血などを生じることがある。

参考に100%エタノールのデータを示す。

急性毒性

ラット（経口）：LD₅₀ 7,080mg/kg

変異原性

発癌性などについての情報は特になし。

12. 環境影響情報

本品での知見なし。

参考にエタノールでの生分解性は良好で、蓄積性もない。一方、水中では、高濃度で水中生物に影響を生じる。

13. 廃棄上の注意

少量の場合は、大量の水で洗い流す。

多量の場合は、産業廃棄物として処理する。

14. 輸送上の注意

漏れのないことを確かめ、落としたり、粗暴な取扱いをしない。

取扱い及び保管上の注意の項に留意する。

15. 適用法令

食品衛生法

16. その他

引用文献等

イチヨウ葉エキスの薬学 ―脳機能と成人病の改善予防―
(ヘルス研究所)

国立健康・栄養研究所ホームページ

メディカルハーブ安全性ハンドブック(東京堂出版)

専売アルコール製品安全データシート(日本アルコール販売株式会社)

GHS混合物分類システム(平成25年度版 ver.2.0)

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関しては、新しい知見及び試験等により改正されることがあります。また、記載事項は通常の実用を前提としたものでありますので、特殊な取扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を講じた上で取扱いをお願いします。